

愛知県 看護協会 だより

2014 Winter vol.117

特集

第18回
日本看護サミット
愛知'13開催

INDEX

- 01 2014年新年のご挨拶
- 02 訪問看護ステーション居宅介護支援事業所 たかつじ10周年記念行事 開催
- 03-06 平成25年度愛知県看護研究学会 開催
- 07 第18回日本看護サミット愛知'13開催
- 07 理事会報告
お知らせ

WLB推進ワークショップ 第2回進捗報告会



公益社団法人 愛知県看護協会

<http://www.aichi-kangokyokai.or.jp>

健康であること、
幸福であること、
そのための看護。



2014年 新年のご挨拶



愛知県看護協会会長 中井 加代子

新しい年を迎え、皆様のご健勝を心よりお慶び申し上げます。昨年も愛知県看護協会としての数々の事業を円滑に進めることができましたのは、会員の皆様方の温かいご支援のおかげと深く感謝申し上げます。

特に、10月の「日本看護サミット愛知'13」では、当協会が実行委員会事務局となり準備と運営に携わりましたが、無事大役を終えることができました。看護のこれからの方針性について愛知県から全国に発信できたことは大変感慨深く、ご協力くださった皆様に厚くお礼申し上げます。

また、昨年5月からは、訪問看護認定看護師教育課程がスタートいたしました。第1期生は順調に学習を進め、現在は最後の仕上げとなる実習に取り組んでおられます。修了後は訪問看護認定看護師として、訪問看護の充実強化のみでなく地域包括ケア推進の中心的存在として活躍されることを期待しています。

さて、平成26年も、心あらたに看護専門職能団体として皆様からの期待に応えられるよう着実に努力してまいりたいと思います。

重点事業方針の「働きやすい労働環境づくり」においては、WLB推進ワークショップ事業が3年目を迎えます。現在13施設がこの事業に参加してくださっていますが、今年も新規参加施設を加え、力強く進めてまいります。また、厚生労働省では看護職の雇用の質向上への取り組みとともに看護職資格保持者の届け出・登録制度が検討されています。ナースセンター事業につきましては、看護職の定着確保の総合拠点となれるよう、就労促進・普及開発・定着促進の組織体制整備をめざして、県に働きかけるとともに具体策を検討してまいりますので、ご支援をよろしくお願ひいたします。

「地域の人々への安全・安心な看護の提供」では、訪問看護師、看護職介護支援専門員、退院調整看護師等、「医療と福祉」・「施設と地域」をつなぐ看護職の活動強化のための支援を行ってまいります。

「看護及び看護職の質の向上」では、引き続き質の高い研修事業を行ってまいります。特に、新人看護職員研修については、全ての対象者が受講できるよう働きかけていきたいと思います。

私達看護職1人1人が、専門職として更に自律し、名実ともに医療のキーパーソンとなれるよう、会員の皆様とともに力強く歩んでいきたいと思いますので、引き続きご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

そして、新しい年の一層の充実と皆様方のご活躍をお祈り申し上げ、新年のご挨拶といたします。

たかつじ 10周年記念行事 開催

みなさまのおかげで10周年を迎えることができました。
感謝の気持ちをこめて、記念行事を開催しました。

日 時 平成25年12月1日(日) 13時30分～16時

場 所 ヤガミホームヘルスセンター 8階サマニアンホール

参加者 利用者・家族・看護師等40余名

内 容 記念講演とミニコンサート
たかつじ10年の歩み紹介



訪問看護ステーションたかつじ、居宅介護支援事業所たかつじは、平成15年7月に開設し、質の高い看護を提供することを心がけて、10年になりました。難病やがん等の疾患を抱えた乳幼児から高齢者まで、利用者の一人ひとりの状態に沿った看護の提供、ケアプランの提示を行っています。医療依存度の高い方からの依頼に応えられるように、これからも、最新の知識・技術の習得に努め、10年間のたかつじに対する信頼をさらに高めて行きたいと思います。

平成25年度 愛知県看護研究学会 開催

平成25年11月29日(金)、吹上ホールで422名の参加者のもとで行われました。口演は27題、示説5題でしたが、とくに、在宅看護のセッションは満席で、参加者の関心の高さを表していると共に、現在の医療看護界の重要な課題が「在宅看護」であると再認識しました。示説では、質疑応答も活発にされ充実したセッションとなりました。

今年の初めての試みとして、2社のご協力を得て、ランチョンセミナーを企画しました。内容も充実し、参加者の強い要望で立ち見席を設けるくらいに好評でした。



昨年好評だった交流セッションは、テーマはそのままに視点を変えた内容で企画し、両方とも満席で、参加者も大きな満足を得ることができました。

特別講演は、りんくう総合医療センター急性期ケア推進室長で急性・重症患者看護専門看護師の北村愛子先生に「看護実践の倫理」についてお話をいただきました。臨床現場であるいは在宅看護の場で、今私たち看護職が最も関心のある、かつ悩んでいるテーマの一つが「倫理問題」だと思います。

先生の貴重なご経験に基づいたお話に、涙している看護職がたくさんいました。メインホールをほぼ埋め尽くす参加者の中、しばらく感動の余韻が漂っていました。これから、看護職は倫理問題に背を向けず、解決の一歩を踏み出すことができると確信しました。

来年も、もっといい学会になるように、さらに努力していきます。みなさまのご参加をお願いします。





特集 第18回 日本看護サミット愛知'13 開催



日時：平成25年10月30日（水）～31日（木）

場所：名古屋国際会議場

主催：第18回日本看護サミット愛知'13実行委員会

愛知県

公益社団法人愛知県看護協会



開会式



これから始まるサミットへの希望や期待が湧き上がる式典に

愛知県知事 大村 秀章 氏



保健医療をめぐる環境が大きく変化している中、
こころ豊かで高い技術を持った看護職員が期待さ
れている。愛知県のとりくみの紹介後、力強くサミッ
トへの期待を述べられた。



第18回日本看護サミット愛知'13 実行委員長 中井 加代子 氏

新たな価値を創出する愛知のモノづくり精神に学
び、看護の新しい未来を、看護職自らの手で創り出
ていきましょうと挨拶。

メインテーマ

「看護の新たな価値の創出」

18回にわたるサミットのフィナーレを飾り盛会裡に



基調講演

「看護の新たな価値の創出のために、われわれがしなければならないことは何か」



聖路加看護大学 学長 井部 俊子 氏

「看護の新たな価値を創出するために看護師が何をする必要があるのか、創出が喪失にならないように」と述べ、看護の価値の創出も喪失も看護師自身に委ねられていることを示された。忘れられない看護エピソード（「看護の日・看護週間」に寄せられるエッセイ）の中的一般部門の一部を紹介し、看護師は自分が行った看護を意図していないが、看護師が看護の価値を意図して語る必要があることを述べられた。

また、村上靖彦氏の著書「摘便とお花見」の中のがん専門看護師の語りを紹介し、看護師が自分の重要性を自覚し、主体的行動者として声を発する必要を述べられた。看護師の仕事を世の中に発するために、現象学を用いて看護師の語りから看護の概念を明らかにすることが、新たな看護の価値を生み出すことになり、看護師の語りの重要性を強調した講演でした。



分科会I

「看護の深まり－看護の質評価の推進－」

座長 勝原 裕美子 氏 (聖隸浜松病院 副院長兼総看護部長)

藤野みづ子氏は、ご自身の取り組みのご紹介、松月みどり氏は日本看護協会の「労働と看護のデータベース事業」について、伏見清秀氏は、医療の質向上のモデル事業を、古谷健夫氏は、企業における品質管理のご発言。

社会において、看護の専門職としての意味や意義は依然不明確であり、看護の新たな価値の創出に向け、実践の質評価の推進と早急な体制整備の必要性が、4人のシンポジストの多角的な提言・議論により再確認されました。



分科会II

「看護の高まり－看護学の発展と魅力ある看護教育－」

座長 洪 愛子 氏 (公益社団法人日本看護協会 常任理事)

鎌倉やよい氏は、講義技術演習と臨地実習の連携、熊谷雅美氏は、「多様性」をキーワードに特に新人看護師の教育について、盛田吉子氏は、愛知県看護研修センターのご紹介、手島恵氏は、これから大学教育の在り方についてのご発言。学生も現役看護師も、継続的に「看護」を追究していくこと、現代や今後の社会情勢に対して柔軟な姿勢を持って臨むことが確認され、参加者からの意見も加わり、「看護の高まり」となる分科会となりました。



分科会III

「看護の拡がり－地域に向けた役割拡大・業務拡大－」

座長 岩澤 和子 氏 (厚生労働省医政局看護課 課長)

真野真紀子氏は、バースセンターでの助産師の専門性について、佐藤エキ子氏は、看護職主導の看護外来を紹介され、認定看護師・専門看護師の活躍を、上野幸子氏は、複合型サービスを通して、訪問看護の重要性について、梅田恵氏は、がん医療における、がん看護専門看護師としての自らの実践を、佐藤博美氏は、地域包括ケアシステム構築に向けての、多職種をつなぐ行政保健師の重要性を各自述べられた。時代が求める看護の挑戦、看護職の役割について深く考える機会となりました。



分科会IV

「看護の継がり－看護の継続性と業務改善－」

座長 大久保 清子 氏 (公益社団法人日本看護協会 副会長)

高階恵美子氏の、看護界を盛り上げる参議院議員としての活動報告を皮切に、中野孝浩氏から、医療機関の勤務環境改善に向けた最新情報、吉村浩美氏は、WLBの改善事例紹介と看護協会の役割について、伊藤剛氏は、被災地としての看護職員確保の取り組み報告、浅見浩氏は、今後の医療施設における労務管理についてのご発言。シンポジストの多岐にわたる内容に、看護の継続性をしっかりと捉えることができました。



プレゼンテーションステージ 敷密さと繊細さを兼ね備える匠の技、愛知の「モノづくり」を紹介

I 伝統の名技

玉屋庄兵衛氏 からくり人形

丁寧なしぐさと
ダイナミックで正確な
動きに会場が感嘆



II 先端の技術

トヨタ パートナーロボット バイオリンの弦を おさえる指先と繊細に 弓を操る手に見惚れる



鼎談



「これからの看護の未来を語る」

患者にとって医療の最前線は看護師。今一度「看護とは何か」を追求。

鳥越 俊太郎 氏 (ジャーナリスト)

患者にとって看護師は医療の最前線でありとても頼りになる存在。すぐれた人間性・看護技術・知識をもつて今以上に人間理解力を高めてほしい。

有賀 徹 氏 (昭和大学病院長)

看護師は患者の生活全体を把握しマネジメントするため、他職種を管理・教育・調整する重要な役割。これからは「医師が主、看護師が従」という考えはあらためるべき。

坂本 すが 氏 (公益社団法人日本看護協会会長)

看護師は医師の従属という呪縛から離れ最前線に立つ。医師の診療の補助ではなく、患者の安全・安楽のために前に向かって進むことが求められる。

閉会式・サミット宣言

「日本看護サミット愛知宣言」は満場一致で採択

日本看護サミット愛知宣言

「第18回日本看護サミット愛知'13」では、超高齢社会においてますます看護職への期待が高まっていることを踏まえ、「看護の新たな価値の創出」をメインテーマに掲げ、看護の深まり・高まり・拡がり・継がりの4つの観点から積極的な討議を重ねてきました。

私たちは、看護の輝かしい将来に向けて、看護の新たな価値を創出するため、さらなる努力を続けていくことを決意し、ここに「日本看護サミット愛知宣言」をいたします。

- 一 国民のニーズに応えられるよう看護の質を評価し、さらなる看護の質向上を追究します。
- 一 看護実践活動と連動した研究により、さらなる看護学の発展に寄与するとともに、魅力ある看護教育を行い、将来を担う質の高い看護職の育成に努めます。
- 一 医療施設や在宅などのあらゆる場でチーム医療を推進するため、保健・医療・福祉をつなぐキーパーソンとして役割の拡大を積極的に図り、看護職への期待に応えます。
- 一 看護職がいきいきと働き続けられる環境づくりに組織的に取り組み、看護職の定着促進に努めます。

これからの 日本看護サミットに についての案内

厚生労働省が後援し、各都道府県の行政と看護協会が主体となって開催する形式のサミットは、本サミットで終了する。

坂本すが日本看護協会会長より、世の中の変化と共にサミットも変化すべきとして、今後は日本看護協会を主体としたサミットの継続が提言された。そして、平成27年に進化した姿で再び出会うことを約束された。

パネル展示

「日本看護サミットのあゆみ」

この形式の最後のサミットを記念し、1996年第1回から今回までの各サミットを40枚のパネルで紹介。



絆がさらに深まった「交流会」

10月30日(第1日目) 18時30分より、名古屋東急ホテルにおいて交流会が催されました。全国から219名が集まりました。始めに中井会長から、第18回までの看護サミットで座長・講師等で出演回数の最も多い井部俊子聖路加看護大学学長(出演12回)をはじめ、3回以上の出演者の方々の紹介があり、今までの看護サミットの成果を築きあげてこられた方々へ感謝の言葉が述べられました。ムジカセラミカ(ファインセラミック楽器)による癒しの音楽が奏でられる中で、名古屋ならではの食事を楽しみながら、各テーブルでは、お国自慢や情報交換が盛んに行われました。友好と看護の絆を更に深め、再来年の新たなサミットでの再会を約束し閉会となりました。

理事会報告

第4回 理事会

平成25年10月21日(月)

協議事項

- ① 平成25年度事業報告(7月~9月)について
原案通り承認。
- ② 「みとり募金」助成施設推薦について
原案通り承認。
- ③ たかつじ10周年記念行事について
訪問看護ステーションたかつじ・居宅介護支援事業所たかつじの10周年記念行事の実施及び10周年記念誌の作成について承認。

第5回 理事会

平成25年12月16日(月)

協議事項

- ① 地区支部規約改正(案)について
現行規約に対し、第3回理事会で承認された部分も含め、再度改正したことについて、説明。質疑応答の後、一部文言を訂正の上、原案通りで承認。
- ② 平成26年度愛知県看護協会委員会事業計画(案)について
質疑応答の後、原案通り承認。(詳細は今後も理事会で検討していく)
- ③ 平成25年度職能集会について
提案内容通りで承認。

平成25年度 受章者のご紹介

受章おめでとうございます。
心よりお祝い申し上げます。



瑞宝双光章

伊藤 恵子 様 (前愛知医科大学病院 副院長兼看護部長)



瑞宝双光章

兵藤 千草 様 (元愛知県がんセンター中央病院 副院長兼看護部長)



瑞宝单光章

黒木 朝子 様 (元聖霊病院 看護部長)

平成25年11月3日



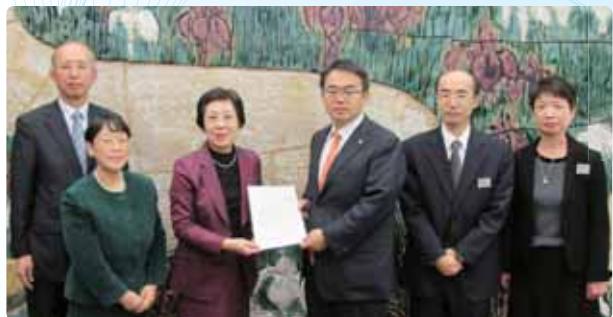
愛知県表彰条例による表彰
(保健医療功労)

野村 勢津子 様 (公益社団法人愛知県看護協会 理事)

平成25年11月22日中日新聞掲載 (掲載分は愛知県看護協会会員)

大村秀章愛知県知事に要望書を提出

平成25年11月21日に、愛知県看護協会から、中井会長はじめ3名が大村愛知県知事を訪問しました。知事公館で知事と会談し、看護職の就労促進、定着・確保に向けた体制強化と新たなシステム構築を主旨とする要望書を提出しました。



訃報

慎んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。 看護師 森本 美穂氏 (39歳) 愛知県厚生連豊田厚生病院 (平成25年6月1日永眠)

表紙の写真について

昨年度から取り組んでいる看護職のWLB推進ワークショップ事業は今年度13施設となりました。表紙の写真は今年度取り組みを開始した9施設の、第2回進捗報告会です。12月19日に熱い討論がされました。

編集後記

新年あけましておめでとうございます。厳しい冬が続いていますが、会員の皆さまは体調を崩したりしていませんか。本年も看護協会の動向や看護の情報を正確にお伝えし、皆さんに興味をもって読んでいただけるように努力してまいります。

●会員数 33,541人 (平成25年12月25日現在) (保健師 585人／助産師 1,296人／看護師 30,397人／准看護師 1,263人)

発行:公益社団法人愛知県看護協会 名古屋市昭和区円上町26番18号 TEL:052-871-0711 FAX: 052-871-0757 E-mail: aikan@aioros.ocn.ne.jp 発行責任者:中井 加代子 発行日/平成26年1月31日